



令和8年3月10日 本校



チームたかたく・はくれい

「なかよく学び すすんで働こう」「希望・意欲・自立」

子どもの育成を目指して -本校 校長たより②-

～自分のできることで、まわりの人を笑顔にしよう!幸せにしよう!～

上松 武

### ■たかたくでの一年、どうでしたか? ～2/26 高等部1年生進級認定式から～

- ・高等部では1年生と2年生は進級認定式を例年実施しています。先日、1年生の認定式がありました。今年度の1年生は17名、中学部から進学した生徒もいれば、市内の中学校から進学してきた生徒もいます。
- ・17名の生徒一人一人にとって、この一年はどんな一年だったのかな～という想いを馳せながら、認定証を手渡しました。そして、私から次のような話をしました。

高等部1年生の皆さん、進級、おめでとうございます。

中学部や中学校を卒業して、その先の進路をどうしようか悩んだ末に、高田特別支援学校の高等部を皆さんは選択して入学してきました。最初からたかたくの高等部へ進学することを決めていた人もいたかと思いますが…。この1年はどうでしたか。うまくできたこともあれば、あきらめてしまったこともあったのではないかと思います。

でも、今皆さんの来年に向けた抱負を聞いて、みんな、大丈夫! 次の1年間、一人一人必ず成長していくと、皆さんに寄せる熱い想いがわいてきました。今日のべた抱負を忘れずに学校生活を悔いなく過ごしてください。

話は変わりますが、私は皆さんが登校してくる時間がとても楽しみです。そんな気持ちで職員玄関に立っています。「〇〇さん、おはようございます」とあいさつすると、「おはようございます」と必ず返してくれます。あいさつをするタイミングが遅く、背中に向かって「〇〇さん、おはようございます」と言ってしまう日でも、振り向いて「おはようございます」と返してくれます。とてもうれしいです。そして、今では「おはようございます」という声が少しずつ大きくなってきている生徒がいて、さらに嬉しいです。

この朝の登校時間は私の一日の元気のもとです。とてもうれしい気持ちになります。皆さんがそうしてくれているのです。皆さんは、まわりの人をうれしい気持ちにさせ、元気を与える大切な存在です。このような元気をもらえる皆さんとの朝のあいさつが、これからも続きますように。

あらためて、進級、おめでとうございます。

- ・どんな想いで生徒一人一人が私たちの目の前にいるのか、その気持ちにしっかりと寄り添い、「それでいいんだよ、今のあなで大丈夫!」と伝え続けながら、これからも教育活動を進めていきましょう。



### ■今までのありがとうを、おもてなしの気持ちに込めて

～2/26 小学部3年生「きっさ ひまわり」～

- ・前のたよりでも触れましたが、この時期は一年間の感謝の気持ちをお世話になった方々に伝える学習活動が行われています。
- ・小学部の3年生が教室を喫茶店に見立てて、いろいろな先生方を招待してくれました。
- ・当日お邪魔してみると、早速笑顔で迎えてくれ



ました。店内には心地よいBGMが流れていて、派手ではないですが、かわいらしく装飾がなされていました。

- ・席に案内され、メニュー表で注文をうかがうところは、随分練習したんだろな〜と感心しました。注文を取りに来た店員さんは、なんとお勧めのメニュー（お茶よりもオレンジジュース）を教えてくださいました！
- ・注文を受けた店員さんは、目印を手掛かりに丁寧にオレンジジュースをコップに注いでいました（オーバーせず）。
- ・人から喜んでもらえることは、とっても嬉しいことなんだと改めて思いました。

さらに、このような学習活動の積み重ねによって、人のために行動することの心地よさ＝自己有用感が高まることを、子どもたちの姿から学びました。

## ■自分も思いやる 相手も思いやる

～2/21「誰もがOK～I'm OK. You're OK～」の研修会から～

- ・本校の先生が主催する研修会に参加しました。研修会のタイトルには、「私は私のままでいい。あなたは、あなたのままでいい。今の自分を認めることが一番大切であり、そこから相手への思いやりや相手が背負っている痛み気付くことができ、相手を思いやる気持ちを抱くことができる」という想いが込められているという説明が冒頭ありました。
- ・人として誰にもある気持ちだと思いますが、それに気付いていない、あるいは気付いているけれど、その気持ちに沿った行動ができていない、そんな世の中だと感じています。そんな世の中だからこそ、「誰もがOK～I'm OK. You're OK～」という心根が必要だと改めて学びました。
- ・研修会の中で、新発田市教育委員会教育長の工藤ひとし様が「子どもは未来の宝物～子ども達から学んだこと～」と題して講演されました。特別支援学校が初任校であったことから、とても親近感を感じながらお聞きしました。ご自身の教職人生を振り返りながら、最後に次のことをお話しされたのが印象的でしたので、記載いたします。子どもたちの教育に当たる者として、今一度かみしめたい内容です。

「子どもは自分を信じてくれる人の話は聴く」

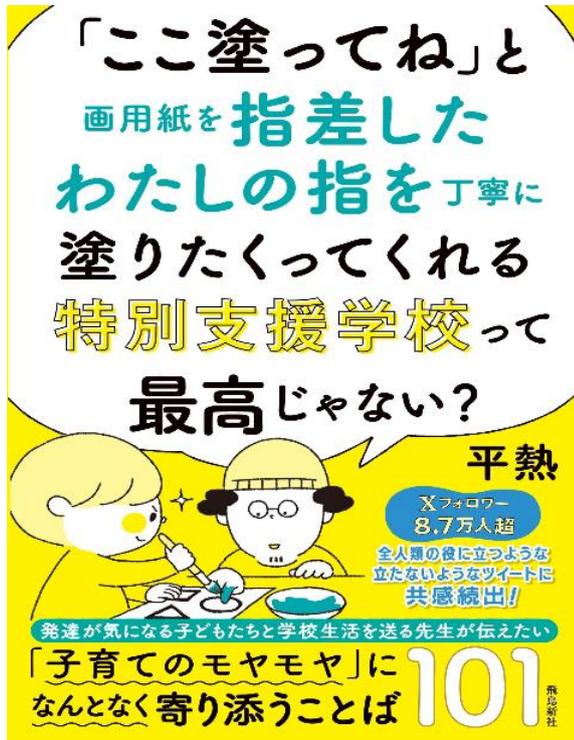
子どもの未来を信じる、この子は成長する変わると、信じることの大切さ。自分を見て、自分のいうことを、まず、途中で話を止めず、いちいち質問も説教もせず、最後まで聞いて欲しい。話をよく聞いてくれる親、先生、大人は、尊敬できると言う。さらに、尊敬できる先生、大人とは、正しい事をやり抜く強さを持った人であり、子どもはその人に威厳を感じる。その人とは、

- ①自分勝手な思い込みで、子どもを、人を決めつけない人
- ②間違えたら、たとえ相手が子どもであっても、誤魔化さず、素直に謝ることが出来る人
- ③何か問題が起こった時に、すぐに子どもや親、地域など、人のせい、誰かのせいにしない人
- ④人に対して、誰に対しても、分け隔てなく接することが出来る人

「目の前の子は、未来からの贈り物である。育て方で変わる」

## ■書籍の紹介

『「ここ塗ってね」と画用紙を指さしたわたしの指を丁寧に塗りたくってくれる特別支援学校って最高じゃない?』平熱 飛鳥新社



### 内容紹介

大人たちの「子育てのモヤモヤ」に“なんとなく”寄り添ってくれる101本の言葉を、思わずクスッと笑ってしまうポップでキュートなイラスト&書き下ろし解説とともに収録しました。誰でも、どこからでも、気軽に楽しく読める一冊。

発達が気になる子どもたちと学校生活を送る平熱先生が、大人たちに伝えたいメッセージが詰まっています。

〈収録されている名ツイート!〉

- ★自己肯定感は伸ばさなくてもつぶされなければ伸びるのよ。このむつかしい話わかる?
- ★指導の一手目は「怒鳴らない」なんだよ? このむつかしい話わかる?
- ★「言ったかどうか」じゃなくて「伝わったかどうか」なんだよ。このむつかしい話わかる?

- ★特別支援学校では「負ける練習」をする。ポイントは、運や偶然性により決着が「すぐ」につくゲームを「何度も」行うこと。負けた感情をコントロールする練習は大切。大人もね
- ★特別支援学校でいう「見通し」はスケジュールや手順書で「つぎの活動を知らせること」だと思いがちだけど、これだけじゃないよ。例えば「味噌汁の具がわからなくて不安」なんて子に中身を説明したり、汁と具を分けたりするのも「見通し」だよ。先行きが分からない不安を少しでもやわらげよう。
- ★だれかに「怒ること」や「叱ること」がいけないんじゃないよ、その人を「恐怖でコントロールすること」がいけないんだよ。このむつかしい話わかる?
- ★運動会のリレー中、バツを追いかけコースアウトしていく特別支援学校って最高じゃない? (飛鳥新社ホームページから引用)

### <お知らせ>

著者の平熱先生が、なんと上越市に来ます! 講演を聞きに行ってみませんか?

□日時 令和8年5月23日(土)午後

□会場 上越市オーレンプラザ

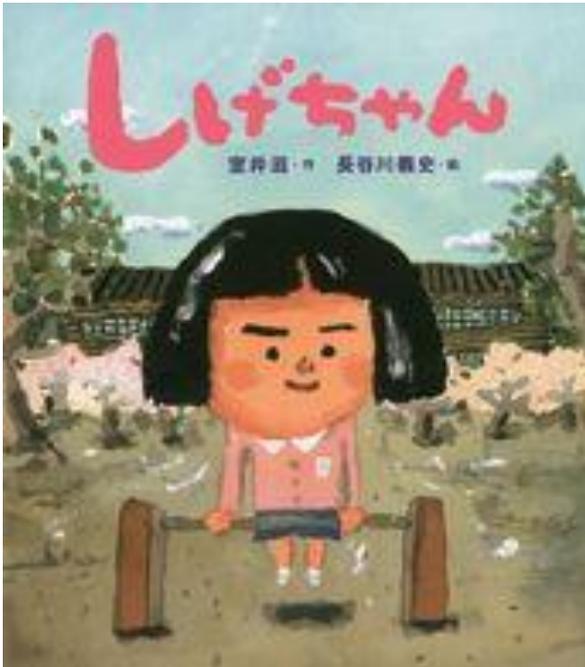
□お問い合わせ先 高田特別支援学校 PTA 伊藤様

『しげちゃん』 室井 滋・作 長谷川義史・絵 金の星社

### 内容紹介

みんなが持っている名前。名前って、生まれた時に自分で自由につける訳にはいかないんですね、当たり前ですが。

だからこそ「あんな名前がよかったのに」「この名前は恥ずかしい」「すごく気に入る!」・・・なんて、それぞれが、色々な事を思ったり考えたりしたエピソードを持っている



のではないのでしょうか。

でも、違う言い方をすれば、名前というのは誰かが一生懸命考えて付けてくれた“贈り物”のようでもあります。

この絵本の主人公、しげちゃんは、男の子の名前みたいな自分の名前を嫌ってみたり、違う名前を考えてみたり、でもお母さんに言ってみてから泣いてしまったり。そして、お母さんに“滋”という名前に込められた願い、思いを覚えてもらい、自分の名前が大好きになるのです。

ご存知のとおり、現在では女優“室井滋”として大活躍されています。きっと、このやりとりは、室井さんにとっても宝物のようなエピソードなのではないのでしょうか。

長谷川義史さんが描く絵本の中のしげちゃん。勝気で、独創的で、ちょっぴり繊細で……でも前向き。今の室井滋さんの魅力のルーツがそのまま閉じ込められているようで、とても愛着がわいてしまう一冊です。そしてやっぱり室井さんは“滋”という名前だからこそ、輝いているのでは？なんて思わせてしまうから、名前って不思議です。

(絵本ナビホームページより)

卒業式には小学部 7 名、中学部 13 名、高等部 16 名一人一人の名前を呼び、卒業証書を手渡します。児童生徒の名前にはきっといろいろな願いや想いがあるんだろうと思います。36 名の卒業生には、自分の名前に愛着と誇りをもち、それぞれのステージで活躍してほしいと願っています。